

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（11月）

派遣先大学：マラヤ大学（マレーシア）

国際地域学部 3年 安江詠星

・はじめに

こんにちは、マラヤ大学に留学中の安江です。前回は何を間違えたかとてつもなく長い報告書を書いてしまったので今月は普通に書きます。11月は途中に10日間ほど中間休みがあったのでタイのバンコクに旅行に行きました。バンコクでは国際地域学部の同期と会いアサンプション大学を訪問したり、タイの友達や現地に駐在している日本の方に泊まらせてもらったりと一週間弱過ごしました。タイとマレーシアは同じ東南アジアの隣国ながらも宗教や言語や民族構成など違うことが多く、色々学んだこともあったのでそういった話も後半に出来ればと思います。

・最近のマラヤでの大学生活

とりあえず最近の大学生活についてまずは書こうと思います。大学生活といっても寮を出て下山して授業に出て、空いた時間は図書館で読書や昼寝や課題をして過ごし、週末はご飯に行くかショッピングモールで課題という名のネットをしてだらだら過ごすという非生産的な日々を過ごしています。また最近では課題や提出物もあり、色々と苦しんでおります。授業の内容はとても興味深く、講義が終わった後に自分で色々調べて自主学習的なことをやったりもしています。しかし問題なのはそこで自分が納得して終わってしまうことで、昔からスケジュール管理と課題に対する危機感が絶望的に低いものなので課題の質が悪く成績の雲行きが怪しくなっているのが実情です。是非これから留学される皆さんには提出期限までに課題をある程度のクオリティとともに終える習慣をつけることをおすすめします。期限ギリギリになって追い込んで終えられるのは日本だけだったなと痛感しています。

・タイ旅行

さて、今月は一週間半ほど中間休みがあったので、限界を迎えつつあるルームメイトとの寮生活から脱出とせっかく東南アジアにいるという地の利を活かすべく、タイに行くことにしました。マレーシアからタイは飛行機で2時間半ほど、往復一万円ほどで行けます（シーズン帰れば多分もっと安い。）タイへは1年後期のPBL以来でした。6日間の日程で前半はPBLの時に仲良くなり福井大学にも何度か来ているランの家に泊まりました。その間はランやタイに留学している土田さんや井口君と日本料理を食べに行きました。なんと言ってもバンコクとクアラルンプールでの違いとして挙げられるのはまず日本料理屋の多さです。本家日本を超えるレベルでバンコクのショッピングモールや中心地にはこれでもかというくらい日本食の店があります。しかも値段がリーズナブ

ル。一体どこでクアラルンプールと差がついたのかは分かりませんがとにかく羨ましかったです。またアサンプション大学にも久しぶりに訪問し、仲良くなったタイの友達や佐野先生や留学中の板谷さんに会いました。時間をあけて同じ場所に来た時恒例の「前回そこに来た自分と今の自分とを比べるあのエモい感覚」を感じながら、前回のタイ研修が東南アジアに留学するきっかけになったことを思い出しつつ懐かしく思いました。なぜか次の PBL でのアサンプション側のバディを選ぶ面接にも面接官として参加しました。参加者全員高いモチベーションを持っており英語がとても上手く中には日本語も喋れる方も居るなど、アサンプション側の本気を感じました。途中の一泊でチュラロンコン大学に留学中の井口くんの寮の部屋にお邪魔しましたが、ビジネスホテルみたいな部屋、個室のお湯が出るシャワーとトイレ、5年以内に作られたと思われる6台ずつの洗濯機と乾燥機、寮の1階には24時間空いているセブンイレブン、真横にはスタバ含めカフェが多く入るモールがあり寮の裏側には公園、5分歩けばタイの渋谷ことサイアムがあるなど、仮にも隣国の最高学府同士ですが一体この差はなんなのかと思わざるを得ませんでした。マラヤ大も住めば都という感じですし、広大な自然と一応24時間の勉強スペースはあるので悪しからず。徒歩5分ではどこにも行けませんが。

(写真：日本食漬けだったバンコク旅前半。8番ラーメン美味しかったです馬鹿にしてきてすみませんでした。)



そしてタイの旅の後半は大阪の実家の近所に住んでいる知り合いの親戚という縁があってタイに駐在している日本企業の方の家に泊まらせていただきました。その方はバンコクの郊外に住んでいて自分はタイでは今まで大学付近か都市部にしか泊まったことがなかったのでローカル感のある風景が新鮮でした。その方も専攻が国際関係学であり、また東南アジアで日本企業を指揮している立場であるのもあって色々な話をさせていただきました。特に異文化交流に対するスタンスやこれからの日本での外国人との関わり方についての議論はかなり楽しかったです。滞在中はローカルのタイ料理屋に連れ

で行ってもらったり、同じくローカルの、観光客は来ないようなお寺に行ったりと、都市部ではできない体験をさせていただきました。その方の奥さんや家族の皆さんもタイ人なので、その日本人の方も含めてずっとタイ語を話されていたので徐々に言語的マイノリティになって新鮮でした。マレーシアでは基本どこでも英語が通じるので、やはりタイとマレーシアは隣国同士であるものの、植民地にされたかどうかや民族構成によって、「文化（アイデンティティ或いは母語）としての言語」と「手段としての言語」の状況が全く違うなと分かりました。前者はタイではタイ語、マレーシアではマレー語、中国語（マンダリン）、タミル語という文化や民族に根ざした言語、後者はマレーシアでの共通語としての英語です。タイでも学生は英語を使いましたが街中ではタイ語の表記が多く母国語の強さを感じました。同時に、マレーシアでの、特にクアラルンプールでの英語表記の多さからその特殊性も少し感じました。6日間という短い期間でしたが、普通の観光では味わえない経験を出来たので良かったです。これから旅行に行くときはローカル部分や現地滞在の人に色々話を聞いてみようと思いました。

・まとめ

自分の勉学のスタイルに猛省した月ですが（毎月していますし多分来月もします）授業を受け、予習や課題をこなし、時にはこなせない中で完璧主義と自分の能力不足の悪循環が良くない効果を生み出しているのも妥協と折り合いをつけてなんとかやっています。失敗は次セメスターに繋げるというスタンスでいきます。またタイ旅行の中で結局一つの国について知るのには観光では不十分であること、英語が通じる環境に慣れすぎていて、英語は万能じゃないこと、よくよく考えれば逆に英語が通じるマレーシアに特殊性があることなど色々気付いて良かったです。年の瀬に向かいながらも気温と天気は毎日一緒のため全く冬の感じはありませんが適度に頑張っていこうと思います。

（写真：みんな大好き ABAC となぜか面接官をしている自分。マラヤの友達もタイに来ていたので合流して観光しました。）

